

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）	
1	確かな学力の確立と規律ある学校生活・家庭生活定着の推進	(1) 魅力ある授業の展開・日常的な課題を工夫するなど学習意欲を喚起するとともに、基礎学力の定着を図る。	① 学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習意欲の向上を図る。	家庭学習時間が学年＋1時間以上である生徒が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	<b>達成度：D</b> 1学期の中間期1ヶ月（5/11～6/14）のホーム調査では基準を達成した生徒の割合は、 1年で 15.3% 2年で 2.0% 3年で 4.3% 全校で 7.2%であった。	遺憾ながら、中堅の進学校としての学習の絶対量としては不足しているといわざるをえない状況である。 家庭学習時間が2時間以上である生徒の割合でみると、 1年で 15.3% 2年で 18.6% 3年で 28.0% であり、学年が進行するとともに上昇傾向にあるので、ホーム担任との面談を行う中で上級学校への進学を中心に据えた進路意識をしっかりとせ、併せて教科担任からの課題設定を適切に行うことにより家庭学習の時間を増加させていきたい。  なお7月アンケートによる、家庭学習時間の確保に対する肯定的回答の割合は次のとおり。 教員で 15.7% 生徒で 38.0% 保護者で 48.5%
		(2) 45分授業の導入に伴う教授内容・方法の確立を図る。	② 本校における教授内容・方法を研究し確立していくために、まずは1年生に対して本校の学力スタンダードを作成する。	本校の使命に応じた1学年の学力スタンダードが作成されたと思う教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	年度末に集計する。	この時期はまだ作り始めた初期段階で評価できるような状況にはないため、年度末のみの集計・評価とする。
		(3) 朝学習・授業・家庭学習・補習等の体系化を図る。	③ 授業をベースとして、生徒の学力や理解度に応じて朝自習、週末課題、補習等を体系的に行う。	親子ともに学習意欲が向上し学力が定着したと思う割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	<b>達成度：D</b> 7月のアンケートにおいて肯定的回答は、 生徒 62.9% 保護者 51.3%であった。	アンケート結果をみると、保護者の意見に厳しいものがある。授業はもちろん、これを補う週末課題や土曜補習などを組んだり、数学や国語では理解度に応じて一部、習熟度別クラス編成で授業を行うなども行っている。学力の定着をみる上では外部模擬試験があるので、その結果も積極的に知らせるなどして、保護者からの指示が得られるようにしたい。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・（1）①については、5～6月という総体総文や修学旅行の時期のデータではなく、平素の学習時間をより反映した今後のデータに注目したい。</li> <li>・（1）①については、1年生の初期指導が肝心。高い志を持って進学に臨んでいくのだという意識を、生徒と保護者に持たせてほしい。1年生勉強会も一考してほしい。</li> <li>・中堅進学校として先生方が頑張っており、その結果生徒の意識が育ってきていると感じる。今後の成果に期待している。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間とさまざまな学力テストの結果との相関関係を分析しながら、適切な時期に生徒や保護者へ情報提供していくことにより、家庭学習時間の増大を図る。また生徒の学力向上を目指し、今後も学力スタンダードの策定や学習活動の体系化を推進していく。</li> </ul>			

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）	
2	上級学校を目指す普通高校としてより高い志を実現できる進路指導の推進	(1) 将来を見据えたキャリア教育を押し進め、個に応じた進路指導を実践する。	① 学年段階に応じたキャリア教育を実施し、面談を行う中で進路目標を考えさせるよう指導する。	本校の行うキャリア教育や面談指導が進路を考えるうえで参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>達成度：D</b>  7月のアンケートにおいて肯定的回答は、69.4%であった。	個々の生徒と向き合うホーム担任による個人面談を行い、現状と将来を見据えた今後の取組を中心に意識向上に努めている。また、学年の取組として、「総合的な学習の時間」を利用した「伏見プラスプロジェクト」による将来の職業を意識した体験的な学習や、進路ガイダンス等の実施も行っているため、その効果が今後現れていくことを期待したい。
		(2) 普通科高校として大学への進学指導を積極的に推進する。	② 大学入試センター試験を目標とする生徒が増えるよう指導する。	センター試験受験者が3年生の A：80% (220人) 以上 B：70% (190人) 以上 C：60% (160人) 以上 D：60% (160人) 未満	年度末に集計する。	
			③ 推薦入試ばかりでなく、個別学力試験で合格するよう指導する。	個別学力試験で国公立大学への出願数が A：70人以上 B：60人以上 C：50人以上 D：50人未満	年度末に集計する。	
		(3) 3年間を見通した計画の中で、高い志を実現できる進路システムを確立する。	④ 高い志を実現できるよう、学年段階に応じた進路システムの構築を図っていく。	高い志を実現できるよう、学年段階に応じた進路システムの構築が図られていると答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	<b>達成度：D</b>  7月のアンケートにおいて肯定的回答は、62.7%であった。	アンケート結果からは、まだまだ昨年までの体質に依存傾向があるとみられる。 個別の多面的傾向をみる検査や定期的な外部模擬試験を取り入れているので、担任・学年・進路指導の連携により、これらのデータを個人に還元する組織的なシステムの構築を図ることにより、教員の意識向上を図っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価			<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2) ③について、必要な受験科目についての指導をきめ細かくお願いしたい。</li> <li>・(3) ④について、生徒に達成感ややり遂げた喜びを感じさせることが負けん気やくじけない心の強さを育てることにつながる。学校行事を大切にしてほしい。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策			<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な進路志望を持つ生徒にきめ細かく対応するため、これまで同様個別面談の機会を大切にしていきたい。</li> <li>・進学校として目標を重点化していく中で、生徒の達成感や自己肯定感を育む視点を意識して学校生活全体をより一層活性化し、高い志を育てていく。</li> </ul>			

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び後期の扱い（改善策等）
3	誠実で品位ある人間性を育む	(1) 時間を守る等、基本的な生活習慣の確立を図る。	① 10分前登校など各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。	遅刻延べ人数が前年度と比較して A：20%以上減少した B：10%以上減少した C：10%未満の減少であった D：増加した	<b>達成度：D</b>  4月～9月までの遅刻人数集計の結果は、昨年度のべ223人、本年度265人であり、19%の増加であった	詳細をみると、1年は19%の減少、2年は50%の増加、3年は76%の増加である。個別にみると、常習的に遅刻している生徒の存在があり、これが全体遅刻数を押し上げている原因である。 今後、生徒指導課・ホーム担任・保護者の連携をとり、遅刻の原因を探りながら、常習的に遅刻する生徒一人一人の自覚を促したい。
		(2) ボランティア活動に積極的に参加する意識を醸成する。	② ボランティアの意義や啓発の機会を通して、生徒の意識を向上させる。	ボランティア活動に参加した生徒数の延べ人数が A：70% (610人) 以上 B：60% (520人) 以上 C：50% (430人) 以上 D：50% (430人) 未満	<b>達成度：D</b>  4月～8月までの参加延べ人数は、27.4% (237人) であった。	人数としては、まだまだ目標達成にはほど遠い。今年度は、「社会と関わる土曜学習推進事業（一子どもたちの笑顔のために伏見生は何ができるか）」を8月から部活動の生徒を中心に開始しており、後半はその効果が期待される。
学校関係者評価委員会の評価				・（2）②について、伏見の生徒に奉仕作業を頼んだところ、明るく元気よく、礼儀正しく、要領よく作業してくれたことに感激した。このような交流はうれしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針				・今後も生徒一人一人の事情や心情に配慮しつつ、生徒の心に響くような遅刻指導を行っていく。 ・生徒主体のボランティア活動を展開することで、参加する生徒数の増加と意識の向上を目指す。		